

新地方公会計制度による統一モデルによる財務書類を公表します

交野市では、「新地方公会計制度」の統一モデルに基づき、民間企業会計の考え方を取り入れ、一般会計や特別会計などを含めた市全体の資産や負債などの状況を明らかにするため、令和6年度末時点の財務書類を作成しました。これら4つの財務書類を市民の皆さんに公表することで、財政状況の透明性の向上を図っています。



交野市

【一般会計等】貸借対照表（BS）

市にどれだけの財産と借金があるか、その内訳はどのようなものかを表しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		
1. 事業用資産・物品等	557.4	億円
（市役所・学校などの土地、建物など）		
2. インフラ資産	136.9	億円
（道路・上下水道・橋などの土地、設備など）		
3. 金融資産・その他	91.5	億円
（預金、未収金、基金、ソフトウェアなど）		
資産合計	785.8	億円

負債の部（将来世代が負担する金額）		
1. 地方債	286.4	億円
2. 退職手当引当金	38.5	億円
3. その他固定負債	0.0	億円
4. その他流動負債	30.8	億円
負債合計	355.8	億円
純資産の部（現在までの世代が負担した金額）		
純資産合計	430.0	億円
負債及び純資産合計	785.8	億円

【一般会計等】資金収支計算書（CF）

現金の流れを示すものであり、その収支を性質に応じて、区分して表示することで、市がどのような活動に資金を使ったかを表しています。

令和6年度期首残高	5.9	億円
1. 業務活動収支	24.1	億円
（行政サービス実施による収支）		
2. 投資活動収支	▲72.8	億円
（固定資産の購入・売却による収支）		
3. 財務活動収支	47.5	億円
（借入・返済による収支）		
当期収支額	▲1.2	億円
令和6年度期末残高	4.6	億円

【一般会計等】純資産変動計算書（NW）

貸借対照表に計上されている純資産が、1年間でどのように増減したかを表しています。

純資産の増減は、将来サービスに対する蓄えの増減を意味します。

令和6年度期首残高	400.7	億円
1. 純資産の増加	298.1	億円
（市税収入、国・県などからの補助金など）		
2. 純資産の減少	▲264.3	億円
（資産の減価償却、純行政コスト）		
3. その他	▲4.5	億円
（その他調整差額）		
当期変動額	29.3	億円
令和6年度期末残高	430.0	億円

令和6年度決算分に基づく市民1人あたりの換算額

令和7年3月末の住民人口 77,239人

○市民1人あたりの資産	101.7 万円
○市民1人あたりの負債	46.1 万円
○市民1人あたりの純資産	55.7 万円
○市民1人あたりに行政サービスを提供するために要する費用	34.2 万円



おりひめちゃん

【一般会計等】行政コスト計算書（PL）			
現役世代にどれだけの行政サービスを提供したのかを表しています。民間企業における『損益計算書』にあたります。			
経常費用(A)	………	280.3	億円
1. 人にかかるコスト (職員給料など)	………	61.9	億円
2. 物にかかるコスト (消耗品、減価償却など)	………	63.2	億円
3. 経費・業務関連コスト (業務委託、利息の支払いなど)	………	3.5	億円
4. 補助・保障給付 (介護、国保給付費、市民や団体への補助金など)	………	151.7	億円
経常収益(B)	………	16.2	億円
1. 使用料・手数料 (行政サービスの利用者が負担する手数料など)	………	3.9	億円
2. その他収益 (貸付金に対する利息、賃貸料、その他雑入など)	………	12.3	億円
純経常行政コスト(C)=(A)▲(B)	………	264.1	億円
臨時損失(D)	………	1.8	億円
臨時利益(E)	………	1.6	億円
純行政コスト(C)+(D)▲(E)	………	264.3	億円

財務書類から分かる交野市の現状
【将来世代の負担軽減に向けた財政運営】
純資産比率は 54.7%、実質純資産比率は 45.2%となっています。これらは、市が保有する資産の形成に対する世代間の負担割合を示す指標で、数値が高いほどこれまでの世代の負担が大きく、低いほど将来の世代の負担が大きいことを表します。両指標からは、世代間で概ね半分ずつ負担しているようにも見えますが、交野市では財政健全化の取組により、公共施設等の更新や大規模改修に係る予算を抑えてきたため、今後の費用増加も見据える必要があります。
また、有形固定資産減価償却率は 76.6%となっています。これは、道路や公共施設などの資産が取得時に比べてどの程度老朽化しているかを示す指標で、他団体よりも高い水準にあることから、施設等の老朽化対策が課題となっています。
このように交野市では、今後、公共施設等の更新や大規模改修に係る費用の増加が見込まれます。世代間の負担の公平性に配慮して地方債を適切に活用する一方、その返済は将来世代の負担となることや基礎的財政収支（地方債に頼らず、その年度の収入で行政活動をどの程度行っているかを示す指標）が▲40 億円となっている現状も踏まえ、必要な公共投資と将来の負担のバランスを図り、計画的かつ健全な財政運営を進める必要があります。

財務分析		
資産形成度	： 将来世代に残る資産はどのくらいあるか	
有形固定資産減価償却率	： 76.6 %	耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているのかを全体として把握することができる。
世代間公平性	： 将来世代と現世代との負担の分担は適切か	
純資産比率	： 54.7 %	経年比較することで現世代と将来世代の負担の割合を表す。
実質純資産比率	： 45.2 %	純資産比率から道路や公園など売却等が困難なインフラ資産を除いて、より厳密な世代間公平性・負債返済能力を表す。
持続可能性	： 財政に持続可能性があるか（どのくらい借金があるか）	
基礎的財政収支 (プライマリーバランス)	： ▲40.0 億円	地方債の発行に頼らずに歳入歳出のバランスが均衡できているかを表すものとなる。
自律性	： 歳入はどのくらいの税収等で賄われているのか（受益者負担の水準）	
受益者負担率	： 5.8 %	地方公共団体の経常費用のうち、サービスの受益者が直接的に負担するコストの比率を表すものとなる。
弾力性	： 資産形成等を行う余裕はどのくらいあるか	
行政コスト対税収等比率	： 88.6 %	当該年度の税収等のうち、どれだけが資産形成を伴わない行政コストに費消されたのかを把握することができる。この比率が 100%に近づくほど資産形成の余裕度が低いといえ、さらに 100%を上回ると、過去から蓄積した資産が取り崩されたことを表す。